

'30年代のパリに生きた
コクトー、プレヴェール、そしてブレヒトに捧ぐ。

薩めぐみシャンソン・リサイタル



1975年4月28日(月)午後7時 29日(火)午後5時開演

西武劇場

東京都渋谷区宇田川町15-1 (渋谷パルコ9F)

薩めぐみが四年半の勉強を終えて、パリから帰ってきた。

何をやるかと思ったら、1930年代の唄を歌うという。これはなかなかたいへんなことで、彼女のこれからの苦難が眼に見えているようである。しかしあえてその苦難の道に足を踏み入れようとするのであるから、並々ならぬ決心があるのである。

30年代の唄といっても、いろいろのものがある。彼女はそのいろいろのものを歌うわけではない。そのうちから特に選んで、ジャン・コクトー、ジャック・プレヴェール、ベルトルド・ブレヒトたちの唄を歌い、そのリサیتالをこの三人の詩人に捧げている。

ここで彼女が三人の詩人の名前をあげて、あえて作曲者の名前をあげていないのは、意味ぶかい。これは歌詞を重要視するというフランスのシャンソンの伝統に従ったもので、彼女は歌詞のすぐれたシャンソン、シャンソン・ア・テキスト、いわゆる文学的シャンソンだけを歌うという意欲の現われである。

こういうシャンソンはいわば高級シャンソンで、ティーン・エージャーなどに喝采されるものではない。フランス本国でも、高級ファンに支持されて、主としてリーヴ・ゴーシュ(原岸)の小さなキャバレなどで識者に認められているものである。

薩めぐみは五年近いパリ滞在中に、こういう種類のシャンソンに傾倒したものらしい。朝に生まれ、夕に消えてゆくという「製造された」シャンソンには、振り向きもしなかったらしい。そしてそれは彼女のよき趣味と、教養を示しているが、日本でもやはり少数の聴衆しか期待できない。そこに彼女の苦難の道があるというわけだが、こういう人が現れなければ、日本のシャンソン界も旧態依然といったところであろう。

私は彼女が歌うシャンソンの時代に、パリの空気を吸っていた。すなわち1932年から33年にかけて、私はパリに生きていた。

ナチスが抬頭してきて、ドイツからどんどんパリにユダヤ人が逃げてきた。私の泊っていたホテルでも、内証でそういう女たちがメイドとして働くようになった。男のほうは男のほうで職を求めたが、みんな闇で働くのでなかなか仕事を見つけることは困難であった。私はライカを持ったドイツ人を一日雇って、名所旧跡で写真を撮ってもらったものである。エッフェル塔や凱旋門の前などで写した写真も、戦争で失ってしまった。

その頃、シャンソン界ではダミア、フレエル、リュシェンヌ・ボワイエ、リス・ゴーティなどが全盛であった。彼女ら راを乗り越えて、新しい道を切開くということは、非常にむずかしいことであった。

そして鉄壁 راを乗り越えようとしたのが、コクトーであり、プレヴェールであり、ブレヒトたちであるといえるだろう。

ブレヒトはそれより少し前、「三文オペラ」でパリにも知られていた。特に映画のそれで熱烈なファンを持っていたが、それも左岸の一部であった。ブレヒトの作品の作曲は主としてクルト・ワイルであったが、ブレヒトの詩はフランス語に訳されて歌われた。

ダミアは早くブレヒト＝ワイルの唄を取上げていた。ゴーティも歌った。しかしプレヴェールの唄は、マリアンヌ・オスワルドが現われるまでは歌われなかった。

プレヴェールは30年代の初期からシャンソンを発表しているが、そしてその最初のものは、今度歌われる「アンブラス・モワ」であろうが、この唄にワル・ベールの作曲で、マリアンヌ・オスワルドによって創唱されている、戦後の「枯葉」の大成功により、プレヴェールは作曲家のジョゼフ・コスマと組み、プレヴェール＝コスマのコンビだけが知られているが、初期にはいろいろの人と組んでいる。当時、ワル・ベールは「屋根の上の牝牛」というキャバレのピアニストとして活躍していたので、プレヴェールの唄を作曲するようになった。

この「アンブラス・モワ」(抱きしめて)という唄は、戦前日本に入り、コロムビアから発売された。オスワルドの歌ったものである。そしてかなりの好評を博した。だからプレヴェールは戦前から日本に紹介されていたわけであるが、彼の名前もオスワルドの名前も全然忘れられてしまった。プレヴェールは戦後すっかり有名になったが、オスワルドはいまだに忘れられている。しかしこの唄は戦後グレコやピアフが歌ったので、かなり知られている。

こういうふう to 書いているといくらでも書くことがあるのでキリがない。あれも書きたい、これも書きたいである。「最後の詩篇」のロベール・デスノスなどは、私が彼の部屋をかりていたことなどもあつて、いろいろ話したいことがある。しかしもう話を終えなくてはならない。

とにかく30年の初期から第二次大戦勃発の狭間のシャンソンには特殊の意味がある。そしてその特殊なシャンソンが認められるに至ったのは、戦後のことである。例えばプレヴェールは戦争中に認められ、戦後に名をなした。ブレヒトでもデスノスでも正しい評価はすべて戦後である。そのことを説明したかったが、とにかくここに薩めぐみがそれらの唄を提出する。すべて原語のフランス語で歌われる。(ブレヒトは仏訳)

ピアノ伴奏はフランスからわざわざよんだクロード・ローラン。この人についても語りたいが、紙数がない。とにかく彼女が左岸のモンジュ通りに近い「ヴィエイユ・グリーユ」で歌った時と、まったく同じにやるそうであるから、パリにいったつもりで聞けばよい。

蘆 原 英 了

この詩たちのほんやくにあたっては、畏友福島瑞江さん、及び、その師、上智大学ポール・リーチ教授による、多大のお力ぞえのあったことを、ここに銘記し、感謝の意を表します。

友 竹 辰

マッキー哀歌

ベルトルト プレヒト
(仏詞) アンドレ モウブレイ

夜の闇に
いなびかり
男逃げ
死か追う

墓穴に
むくろ落ち
みなごろし
音もなく

きちかいの
ものを盗り
わめくスケ
やっちまう

恥知らず
女ごろし
そいつこそ
そう マッキー

ひとごみの
うねるなか
人喰いが
まぎれ行く

あなぐらで
腹ブツさく
そいつこそ
そう マッキー

強盗だ
大恐慌
なにもかも
からっぽだ

ポケットも
物入れも
そいつこそ
そう マッキー

燃えるは火
あんたらは
逃げまどい
狂い死ぬ

きこえるは
たか笑い
そいつこそ
そう マッキー

いなびかり
男逃げ
死か追う
音もなく

大砲の唄

ベルトルト プレヒト
(仏詞) アンドレ モウブレイ

ひとりとは仏も、もひとりかジョン
やつらの軍曹はジョージ・カーソン
索姓かまわぬ軍隊ぐらし
前進 前進 ただ前進

(繰り返し)

大砲とどろき
足音たかく
行くはガンジス マラバール
暑さ寒さや 渴きも飢えも
死んでしまえば それまでよ
敵は黒ン坊 それとも白チャン?
今宵 死ぬ身にや同じこと

ジョニーはひでえ酒をのみ
ジミーはひでえ腹くだし
ジョージは二人をかかえこみ
行こかもどろか それとも死のか

(繰り返し)

ジムはばらされ ジョンは死に
ジョージはとうから あの世行き
だけどいくさは
いつも血さ
まっかつかかの
血の流れ

海賊の花嫁

ベルトルト プレヒト
(仏詞) アンドレ モウブレイ

そう あたいはコップ 血洗い
「オネンネ・マリイ」と呼ばれてる
一ペニイもらうと もいちど
ありがとと云うの
見てよこんなボロを着て
オンボロホテルの隅っこにいて
今日び あたいたか誰なんだか
いるんだかないんだかさえ判んない
でも ある晩大さわぎがあって
みんなが海岸へかけてくの
「ちょっとお 誰が着いたのさあ」と云いなが
ら
あたいははじめて
ニヤッとするの みんなは云うわ
「アラア あんたって 笑えるの」
舷門に百の大砲をつけた大船が
港に入ってくるのよ

で あたいはまだコップ 血洗い
やっぱし「おねんねマリイ」なの
一ペニイもらうといつだって
「有難う」って云うの
こんなボロ着たまんま
オンボロホテルの隅っこにいて
明日の朝だってあたいが一体だれなんだか
誰にも判りやしないよ 今日とおんなし
でもある晩 それが判るの

ほら 百の大砲が鳴りとどろく
あたいははじめて
声をだして笑うの みんなは言うわ
「このいじわる なんで笑うのよ」
ゲンの高い船が
舷門に百の大砲つけて
港に向けてぶっ放すのよ!

ほら見て 百人もの水夫が上陸して
そこら中の家や戸口に
血の十字架の印をつけるわ
血だらけ傷だらけで
泣きわめく ぶっ飛ばられた
あんたらのお仲間よ 公立派なみなさん
あんたらのお仲間よ 公立派なみなさん
さて あたいの待ち人あらわれて
「こん中のどいつを殺してほしいんだよ」
あたいは云う そとね
「ぜえんぶう!」
首がおこちるたんび
手を叩くわ
ホラア
さて 舷の高い船が
みんなおっちゃんだ街から はるかとおく
あたいをつれてってくれるの ほんどの人生へ

スラバヤジョニー

ベルトルト プレヒト
(仏詞) アンドレ モウブレイ

16であたいはもういっぱしだった
あの晴れた日ビルマから
あんたやって来てこう云ったわね
たったひとこと「こいよ おいらと」
あたいはきく「仕事あんの?」
あんたは答える「汽車ボッポのカマタきだよ
いつだって旅さ 住所不定のヤサグレでも
海でくたばるよりやいいってこと」

いろんな生活 したわね ジョニー
嘘もついたわね ジョニー
あたいの心を摘んだわ ジョニー
おつゆたっぶりの果物みたいに
あんたがにくいわ ジョニー
あたいをコケにして ジョニー
パイプを口からおはなしたらアノ
ごろつき

スラバヤジョニー
ナンデあんた そんなにワルなの
スラバヤジョニー
もうあたいをどうとでもしてよ
スラバヤジョニー たまんないわ
薄情もん ひとでなしジョニー
で あたいはあんたにべったり

こうなつちやもうおしまいね
あんたは根っからのヤクザもん

あたいはバカ でもわがったわ
しよせんはこうなるものと

それでも今日も連れこみホテルで
あたいが聞くのはあの波の音
やっぱしあんたは行っちゃまう だまって
船は出ていく また波止場から
ハクジョウもん ジョニー
クソッ ゴロツキ ジョニー
いっちゃまうの ジョニー
ねえ どうして ねえ
べったりなのよあたい ジョニー
はじめてのあの日のように ジョニー
パイプを口からおはなしたらあノ
——このごろつき

スラバヤジョニー
なんであんた そんなにワルなの
スラバヤジョニー
もうあたいをどうとでもしてよ
スラバヤジョニー たまんないわ
薄情もん ひとでなし ジョニー
で、あたいはあんたにべったり

バルバラの唄

ベルトルト プレヒト
(仏詞) アンドレ モウブレイ

ね あの頃 私がまだ生娘だった
あなたもそうでしょ ほら思い出して
私には判ってたの いずれは来るって
夫なり恋人をえらぶ日が
お金 持ってるか
さもなきや すてき
ウィークディでもカラーは真白
ひよっとして 心も名前もくれるって
で 私のこたえ「ノン」

(繰り返し)

目なんか伏せちゃだめ
知らん顔でいいの
お月さんが照ってても
船が波間に眠ってても
心はおしだまり
うちとけちゃだめよ うちとけちゃ
静かに つめたく じっとして
でも 期待させちゃ かわいそう
すぐ答えるの「ノン」

最初のがまずセント生れ
ジェントルマンの騎兵さん
二人目は王様みたいなお金持
三人目はあたしに言っただけ
お金持ってるし
その上 すてきだし
いつだってカラーは真白で
心も名前も くれるったって
あたしの答えは「ノン」

(繰り返し)

さてある晴れた日に
なんにも呉れるものない人が来た
ノックもなしにやってきて
帽子をベッドに投げつけた
文なしで
魅力なし
日曜なのにカラーはよごれ
くれたもたら 苦勞だけ
でも 云えなかった「ノン」

目なんか伏せちゃって あたし
氣にいつちゃったのよ あたし
お月さんは輝いて
船は波間を進んでく
心はさわいだのよ
うちとけちゃったのよ ところちやった
理屈ぬきなよ 恋ってもんは
しやわせえて云える日に
あんたなら云える? 「ノン」

ビルバオ ソング

ベルトルト プレヒト
(仏詞) ボリス ヴィアン

ダンス・ホール
ビルバオ ビルバオ ビルバオ
この世でいっとう楽しいとこ
ガヤガヤガヤと夢いっぱい
ガヤとゆめ ガヤとゆめ

この世のいっとうたのしいこと
ま あんたがそこへ入ったら
こんな筋書きお好きかどうか
あたしや知っちゃいないけど
ガブガブやっちや笑ったさ バアみたいに
フロアに草ボウボウ
屋根の上ゆくお月さん
そして ネ 音楽——ホラ
そりやもう払った分だけは タップリ
ジョウ——やってよあの曲 ほら あの頃の

なつかしい月 ビルバオ
なんてよかったの あの恋
なつかしい月 ビルバオ
あそこで吸った シガーも
なつかしい月 ビルバオ
淋しくなんか させない
なつかしい月 ビルバオ
仲間とはぐれちゃ いけない
ま こんな筋書きお好きかどうか
あたしや 知っちゃいないけど
けど——とてもケッコウ
とてもケッコウとてもケッコウ
世界—ノ

ダンス・ホール ビルバオ
1908年5月も末のあの良い日
4人の野郎がやって来た とても金持ちの
とても金持ち とても金持ち
やつらのしたこと話すのは
ちょっと難しい でも
あんとき あんたが居たならば
ま こんな筋書きお好きかどうか
わちゃ知っちゃいないけど
ガブガブやっちや笑ったよ バアみたいに
フロアに草ボウボウ
屋根の上ゆくお月さん
フリスコからの四人組
ブラウニングをぶっ放し
それに楽隊 続いた

なつかしい月 ビルバオ
なんてよかったの あの恋
ナツカシお月さん ビルバオ
あそこで吸った シガーも
なつかしい月 ビルバオ
さみしくなんか させない
なつかしい月 ビルバオ
仲間とはぐれちゃ いけない
ま こんな筋書きお好きかどうか
わちゃ知っちゃいないけど
けど——とてもケッコウ
とてもケッコウ とてもケッコウ
世界—ノ

ダンス・ホール ビルバオ
こんちすっかり模様かえ
スカレちゃって
大きな植木や窓 そこいらの
そこいらの そこいらの
ただの店とまるでおんなし
あんたがあのころ来てたなら
たぶんイカスと思ったはず
いまじゃ全くオイモのケツプ
とてもハシヤグ気になれないの
フロアに草なんてあるわけない
お月さんもどっかへ行っちゃった
さて音楽は——とこれがまた
ゼニとってヒトをコケにすな
ジョウ——やってよあの曲 ほら あの頃の

.....
.....
エエト.....ラララ
.....

あら歌詞忘れちゃったのか知らん？
あそこには恋があつて——
いいえ それもどうだったかしら
ずいぶん とおい話ねえ
ま こんな筋書きお好きかどうか
あたしや 知っちゃいないけど
けど——とてもケッコウ
とてもケッコウ とてもケッコウ
世界—ノ

船艙人夫

テオドル プリヴィエ

おれたちや化物 みんながみんな

海に憑かれた 呪われ者よ
何がなんでも 何がなんでも
汽船のふながら 満杯に
愚態つきつき 休みもならず
いつも地獄の 鉄仕事
ひでえ態だが 正直もんさ
くべろ石炭 一杯 二杯 それ三杯目
しらみ 疥癬 汚れた手
おれたちや船ぐら あえいだとても
もはやお船は海の上
みんなつばった その果てに
血管なんざア ぶっ裂けるノ
語るも悲劇の暗闇世界
最もむごい航海だ いやほんと
ひでえ態だが正直もんさ
かき立てろ火を一番 二番 三番がま
目をまわせ そら火の劇に
一等室の婦人方
のたうつ女体そっくりに
液は鉄屋根おしつづ
そんな女体をレースに包み
一人 二人と出て来るならば
そいつは一体だれのもの お前の？奴の？おれ
のものノ

ひでえ態だが 正直もんさ
とらえろ それ一人 二人 三人目
おいら呪われ者 カマ焚き 船ぞこ人夫
生れいやしい賤民なのさ
蒸気ノ船は行く
蒸気ノ海はうねり
蒸気ノマストにまといつき
蒸気ノスクリューまで
蒸気ノ進むため
よこれっ面で機械や汽罐に地団駄し
支那までつける太い道
青くてひろい航跡だ
蒸気船の航跡だ
とことん燃やせ
おれたちやドレイ 呪われ者
客船「海の君主号」
とことん燃やせ どんどこ燃やせ
燃やせ燃やせ 燃やせ燃やせ
どんどこ燃やせ とことん燃やせ

的当てゲーム

アンリ J クルゾー

寄ってらっしゃい やってらっしゃいお立合ひ
的当てゲームだよ
球は一ダースでたったの20スーだよ
寄ってらっしゃい一文無し
ただの人 まけ犬 腹ペコさん
やってらっしゃい 何のとり柄もない人
ちよいとそこの宿なし 寂なし なにもなし
うけた痛みを 返すため
不運の怨みを はらすため
心の傷を いやすため
うらみつらみを 的にして

ハウッラブン ままはは
ハウッラブン 嫁さん持ち
ハウッラブン お役人
ハウッラブン 銀行屋

殺しちゃえ どうせ人形
しっかり狙え しょぼくれ唇
何やってんだい カ一杯
あいつらに球 ぶっつけろノ

あたかも同じ 生きた人形
この身は傷で ズタズタ
おぼえてる？あのスペインの二枚目
あたいの男 むごくてやさしい
あのスケたちに 仕返しするわ
男たちはみな あたいに付らい
また別のスケと できたみたい
あたいは死ぬわ こうつらくっちゃ

ホッラブンノ 胸トコ
ホッラブンノ ドマン中
ホッラブンノ オツラに
ホッラブンノ 出っ歯に

殺しちゃえ どうせ人形
しっかり狙え しょぼくれ唇
あたいらだつて 力いっぱい
あいつらに球 ぶっつけるノ

雪玉

ボール フォール

人々は私に雪玉を投げる
私のことがわからないから
私はひとり手さぐりで
しあわせ求めさまよってから
誰かには愚か者と呼ばれ
またはかの人は気狂いと言う

でも私はみんなとおなじ
夏には歌を鳴い
嵐の時は唇をとぎし
寒い冬にはふるえた

誰かには愚か者と呼ばれる
私のことがわからない人に

私の何がいけないの
過ぎたこと みな忘れたとて
このさき 行くすえに
誰の助けも要りはいない

私はひとり手さぐりで
誰かには愚か者と呼ばれ
ほかの人は 無分別 また別の人には
気狂いノと

人々は 私に 雪玉を投げる

部屋係のアンナ

ジャン コクトー

あノマドモアゼル、あノマドモアゼル
マドモアゼルアナベル
マドモアゼル・アナベル・リー
おまえ様はくなくなられてからも
いっそうおきれえ。
夜な夜な扉を透りぬけ
あたくしのベッドのもとにおいで。
マドモアゼル マドモアゼル
マドモアゼル アナベル・リー。

おまえ様が あんまりよくて、
あんまりきれえ、あんまりかわいい——
だからみんなは花を挿げてた 祭壇みたいに
で、あたくしめは メイドのアンナ、
アンナ ハッ、ホテルのメイド。
おまえ様はいつもごてえねえ
そんでもってちょいとかわいすぎ。
大きなお部屋に住んでらしてね。
そしてあのこと——忘れちゃったけどお。

うそよ。おぼえてますとも、呼ばれたのはあたくし。
あの晩おまえ様か呼んだの
みんながあたくしを呼ぶように
でもまあ何が面倒だと云っても
その為だけでは——まあね——人殺してわけ
には——。

あたくしどもはもう ねて 起きて 働いて、
階段に——廻廊に——。
けど、おまえ様はぐっすり眠るのに
いつもお薬「アンナちゃん
十滴注いで頂戴 十滴、それだけ」
あたくしは全部注ぐ
そいでヒトゴロシ。

どうってこたない、あたしやメイド、
おまえ様はきれえで よくて、
いっぱいお客が みえ、
いっぱいおたからを お使い、
日髪、日化粧、
オマニキュア——おセックス・アビイルノ
あノマドモアゼル、マドモアゼル
マドモアゼル アナベル、
マドモアゼル アナベル・リー、
おまえさまは亡くなられてからの方が
よっぽどおきれえ。
マドモアゼル—— マドモアゼル——
マドモアゼル アナベル・リー。
あたくしが疑われてると お思い？
警察や お医者には——
あたくしはアンナ、いつでもお呼びを、
で ヒトゴロシはよこで探すでしよ。
あなたのプリンス、公爵、伯爵たち
ひざまづいてた崇拜者
あの人たち ものの数じゃないわ
秘密はふたりだけのものでもの

平っちゃラに見えて？

ダメ。明日も来るわ。
ホント、犯人じゃないのそれは、
ヤルのは あんたの手よ
「十滴よ、アンナ それだけ」
だからあたくしはぜえんぶ入れちゃう。
あ／やんなっちゃった——
ある日、あたくし窓からトビオリ。

その埋葬ときたら／どうよ
蘭の花のお値打ちぐらいいはいくか知ら？
あの方のお発ちの御予定でした、ヨットでジャ
ワへ。
ジャヴァ！
(ジャヴァのメロディ聞えてくる。
そしてベル——)

参ります。参りますよ——イクワヨッ！

モンテ・カルロの御婦人

ジャン コクトー

死せる者らの間で死者たる時
ひとは生ける者らの間を徘徊する——
あらゆるものがおまえを追いだて
風のようにバタンと扉を閉ざしてしまう、
もはや若くもなく愛さもなく……
扉は背後に閉ざされてしまう
残された道は身投げか
拳銃でこめかみをうつか。
そう 皆さん、それだけがすべて
億病者と単性者に残されたすべて。
でも、もしそうすることが怖くて
鈴の音のようにこびりついて離れないなら、
静脈をぶち切るのが怖いようなら、
ちよいと運試しに出かけたらどう
モンテ・カルロ。

(唄)

モンテ・カルロ／モンテ・カルロ／
わが一日はおわりぬ
みなそこまどらもう
あのメロディヲニ
モンテ・カルロ／モンテ・カルロ／

おまえの魂を売り
宝石を質に入れたら
いっそさばさばして
ルーレットは楽しい玩具。
ほんととすてき「賭けた」と叫ぶのは
それがおまえの願をそめ
それがおまえの瞳をきらめかす
服喪のヴェールのかけで。
寡婦たる高貴の名を戴く
その爵位こそは我慢！
狂乱した身づくろい、気を変えて
カジノでカード遊び。
見て 私の羽根飾りにヴェール、
見てよ まがいダイアの運の星
これが連れてく モンテ・カルロ。

チャンスは女みたい。嫉妬するの
この莊麗なるやもめぐらしを。
私をほんとうに大佐の妻だと
思いでもしたのかしら。
賭けた、儲けた 十二番で。
するとドレスが裂け
毛皮の毛は落ちた。
私はくり返す「賭けた」と。
でも チャンスがおまえを嫌い、
おまえの心がビビッたら、
どうすることも出来やしない、
たとえスー賭けるにも
チャンスに見はなされないで
数字とカードを変えなんて
モンテ・カルロの賭博台で。

ごろつき／バカタレ／カサッカキ／
やつらが私を突き出す外へ——外へ——
私をきたながっていじめる
やつらの部屋ツキを落すって
やつらのきたならしい部屋。
私のとっときのトリックを見せたのにねえ
それもロハで、王子様には、王女様には、
ウエストミンスター公に
あのほんもの公爵に——やめさせてつたら、
やつらが「あんたのイカサマ」って叫ぶの、
「あんたのイカサマ手口」？——私の新発見
よ。
私はオリるわ 緑のテーブルから。
アカンペーだ モンテ・カルロ。

そして今、あんたらに話してるこの私
私がどんなに痩せちまったか
言えないわね このモンテ・カルロで
私は私の影みたくになっちゃった——。
倍賭けやら掛け引き
賭金をくすねるあんたの指
遠くからビシャツとやる
まじめな賭博台のカントクさん
そして溜った下宿代
そしてたった一枚のブラウス
つらい汗でびしょ濡れよ。
どうされてもいいわ。私もバカじゃない。
今夜こそ頭からつっこむわ
この海へ モンテ・カルロの。
やりたきややりなよ いざとなりや
今夜にでもとびこんでやるよ
この海へ モンテ・カルロ！

タクシー運転手の悪い夢

ジャック プレヴェール

タクシーがとまる
人間たちがおりる
ひとりが金を払う
運ちゃんばタクシーを出す
別の客が呼びとめ
行先を云って乗りこむ
タクシーは走りだす、シャトー・ダン街25へ
運ちゃんはそこへ着くまで
その行先を憶えてる
なんてオカシな職業だ
熱があったり
酔っぱらってたり
夜のベッドでいこう時
何千何万の行先が
全速力でやって来る
頭のなかで衝突だ
まるでオツムは電話帳
まるでメトロの地図みたい
そこで頭をかかえこみ
そこで頭をかかえこみ
ひとりブツブツ愚痴こぼす
ボージラル街二百二十二
メニルモンタン三十三
グランバレ、サンラザール駅
グランバレ、サンラザール駅
グランバレ、サンラザール駅
グランバレ、サンラザール駅
グランバレ、サンラザール駅
最後のモヒカン族街
ブツブツ大佐広場
デブ・ヒゲ通り
デブでおヒゲの
三馬鹿大通り
タクシー！タクシー！タクシー！タクシー！
タクシー「おでかけ」用
タクシー「グランプリ」用
タクシー「尻打ち」用
タクシー「伯爵夫人」用
タクシー「カクテル・パーティ」用
タクシー「ビジネス」用
タクシー「大戦」用
タクシー！タクシー！タクシー！タクシー！
タクシー「墓地」行き！

朝寝坊

ジャック プレヴェール

むごいもの
錫張りカウンターで茹玉子を割る 小さなあの
音
むごい音
飢えた男の脳味噌をゆさぶるあの小さな音
そうだ脳 頭脳 むごたらしいのは頭蓋
飢えた男の頭
朝っぱら6時 食品デパートのウィンドウに
男は己が影を視る 飢えた頭をかき上げて
そこにも埃まみれの頭がある でも
ボタンデパートのウィンドウの中の頭は
もう自分の頭なんかじゃない
飢えた頭なんかどうだっていい
そんなこと考えちゃいない
夢みるのは
別の頭 ほら
犢の頭
ヴィネグルスソースかけ犢の頭 とか
何だかっていいき喰えりや
顎をちよつと動かしてみる
ちよつと歯ざしり
世間がどんなにむごくても

さからうことさえ出来はしない
指を折ってみる いち にい きん
1 2 3
そうだ三日も食べてない
三日という日を毎日数えた
こんなむごい事が続くわけない
でも続いてる
三日
三晩 も
飲まず喰わず
いま このウィンドウのあっち側には
ほらバテに 酒場に 騒騒だって
魚は死んでさえ罐の楯に守られ
その罐はウィンドウに守られ
ウィンドウはボリ公に守られ
ボリ公は民衆の恐怖に守られ
たった六匹のふしあわせな鯛にこのかたい守り——
ちよいと先のピストロには
キャフェ・クリームとほかほかクロワッサン
男はよろばい行く
飢えた頭をかかえたその頭は
もやもやの言葉の霧
言葉の霧
喰うイワシ
茹玉子 キャフェ・クリーム
キャフェ・ラム酒入り
キャフェ・クリーム
キャフェ・クリーム
キャフェ・クリーム(犯罪)血汐入りの——
さて町内の顔役が
まっぴるま絞め殺された
犯人の浮浪者は二フラン盗った
キャフェ・入りの ための
零フラン七十サンチーム
バタバタした二個のお代と
ボーイにはチップを二十五サンチーム。
むごいもの
錫張りカウンターで茹玉子を割る小さなあの音
むごい音
飢えた男の脳味噌をゆさぶるあの小さな音！

こども狩り(不良少年狩り)

ジャック プレヴェール

ワル！ 不良！ ぬすっと！ ヤクザ！

島の上 鳥はめぐり
島のまわり 水はめぐる

ワル！ 不良！ ぬすっと！ ヤクザ！

あのさわざは何だ

ワル！ 不良！ ぬすっと！ ヤクザ！

あれはこども狩りに集った
クソまともなおとなたち
こどもは云った「感化院なんかくそ喰え！」
そこで番手は鎌東で歯をへし折り
こどもはタタキの上にノされたまんま

ワル！ 不良！ ぬすっと！ ヤクザ！

さてこどもは脱走し
追いつめられたけものように
夜のなかをかける
おとなが追いかける
ボリ公に 野次馬に 金持ちに ゲエジツカ！

クソまじめな人間が
少年狩りに集った
許可証要らずの狩猟ごっこ
御親切な方はみんな来た
夜の闇を泳ぐ あれは誰だ
あの光 あのさわざ あれは何だ
こどもは遂に逃げのびる
あとをめがけて弾丸を撃つ

ワル！ 不良！ ぬすっと！ ヤクザ！

岸に残ったおとなたち
切齒扼腕地団駈する

ワル！ 不良！ ぬすっと！ ヤクザ！

おい きつと陸に泳ぎ着けよ

島の上を 鳥はめぐり
島のまわり 水はめぐる

記者紹介 友竹 辰 (詩人)

1931年広島県福山市生。六白金星天秤座。国立音大専攻科卒。1957年第一詩集「聲の歌」(の場書房刊)を発表以来、73年「友竹辰詩集」(思潮社刊)を経て現在も活発に詩作を発表している。「權」同人。尚、友竹正則の名で声楽家としても活躍している。